

株式会社

伊予マーク陶板制作



▶ 制作にあたって

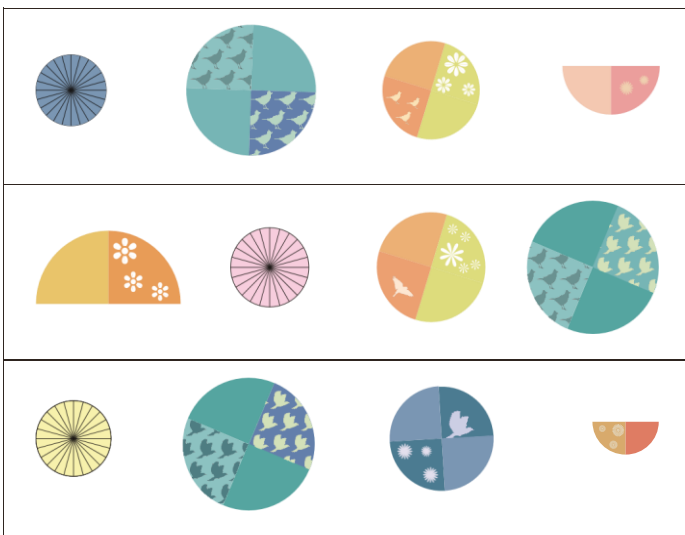
令和元年5月、砥部町拾町に移転する株式会社伊予マークより、新社屋の外壁を飾る陶板制作の依頼を受けて陶芸部の2年生4名が制作に携わった。

企業のコンセプトを踏まえ、作品テーマを「発展」とし、地元砥部焼の粘土を使って高校生が考える新しい砥部焼のデザインを考案した。デザインは、砥部町のシンボルキャラクターにも使われている「ひばり」をモチーフに、左から空高く飛び立つ姿をあしらい、企業の更なる「発展・成長」を表現している。また、陶板はそれぞれのパーツを組み合わると、丸くなるような設計となっており、硬質的な外観に丸く軽やかに漂う形状にすることで、地域の人々から愛され、多くの企業と円満に縁を結ぶきっかけとなることを願ってこの形に制作した。

アイデアから制作まで、約6か月間をかけて直径25cm~50cmの合計33枚の陶板を制作した。



▶ 制作イメージ図



▶ 成形方法

成形は、12mmの陶板に貼花(はりか)、色化粧掛け、ゴム抜きといった陶芸技法を用いて制作を行った。貼花とは、薄く伸ばした粘土の板を表面に貼り付ける加飾方法の一つで、3種類のひばりのシルエットを2mmの厚さの粘土板になるよう石こう型を作り、レリーフを量産して陶板表面に貼り付けている。

